

博士後期課程口期

令和四年度 武蔵野大学大学院

文学研究科 博士後期課程 入学試験問題 (一月九日)

受験番号


氏 名

--

【専門科目 (近現代文学分野)】 50点

別紙の文章(リービ英雄「ぼくの日本語遍歴」『新潮』2000年5月)を読み、以下の設問に答えなさい。

問一 傍線部(1)「読み手のパラダイスのような環境」とあるが、どういうことか。どこがどのような点で「パラダイス」なのかがわかるように150字以上200字以内で述べなさい。

問二 傍線部(2)「日本と西洋だけでは、日本語で世界を感知して日本語で世界を書いたことにはならない、という事実にも、おくればせながらその頃気づきはじめた。」とあるが、どういうことか。文中の言葉を用いて説明した上で、自身の研究分野において少しでも関連する事例があれば具体的に挙げて、200字以内で述べなさい。

問三 傍線部(3)「世界がすべて今の、日本語に混じる世界となった。」とあるが、どういうことか。本文で述べられている筆者の体験に即して、100字以上150字以内で述べなさい。

博士後期課程 Ⅱ期

令和四年度 武蔵野大学大学院

文学研究科 博士後期課程 入学試験問題 (一月九日)

受験番号


氏名

【専門科目 (古典分野)】 50点

〔資料1〕『古今和歌集』巻第一巻頭歌の抜粋

古今和歌集 巻第一

春歌上

ふる年に春立ちける日よめる

在原元方

① 年のうちに春は来にけりひととせを去年とやいはむ今年とやいはむ

春立ちける日よめる

紀貫之

② 袖ひちてむすびし水のこほれるを春立つけふの風やとくらむ

問一 次に掲げる『小倉百人一首』所収の歌は、「仮名序」で六歌仙に数えられる歌人が詠んだ歌であり、『古今和歌集』巻第二・春下所載の歌から採られている。楷書で翻字しなさい。なお、左の一字下げの一文は参考であり、翻字する必要はない。

ふれをいしむにやちかきふらふらなからむささぎせしは  
古今集春めむささぎとやあむ

いしむ

問二 ①の歌を解釈しなさい。(現代語訳しても、歌の表す内容を説明しても構わない)

問三 明治三十一年の新聞「日本」連載の歌論において、右①の『古今和歌集』巻頭歌の酷評に始まり、和歌史における『古今和歌集』称揚の流れを否定し、短歌の革新を提唱した文学者の名とその歌論の名を答えなさい。

〔資料2〕『古今和歌集』「仮名序」巻頭の抜粋

やまとうたは、人の心を種として、万の言の葉とぞなれりける。世の中にある人、ことわざ繁きものなれば、心に思ふことを、見るもの聞くものにつけて、言ひ出せるなり。花に鳴く鶯、水に住む蛙の声を聞けば、生きとし生けるもの、いづれか歌をよまざりける。力をも入れずして天地を動かし、目に見えぬ鬼神をもあはれと思はせ、男女の中をやはらげ、猛き武士の心をも慰むるは歌なり。

問四 〔資料2〕に紀貫之が説くところを二百文字以上で説明しなさい。(本文を現代語訳しても、その要諦を説明するかたちで解答しても構わない)